

令和7年度6月補正予算(案)のポイント

令和7年6月5日

6月補正予算(案)の概要

◎予算(案)の規模	28億 414万円	一般会計 28億 414万円 (継続費 8億1,200万円) (債務負担行為 5億3,850万円) 企業会計 (債務負担行為 5,600万円)
※令和7年度予算額の累計		全会計 7,329億4,354万円 うち一般会計 3,913億 414万円

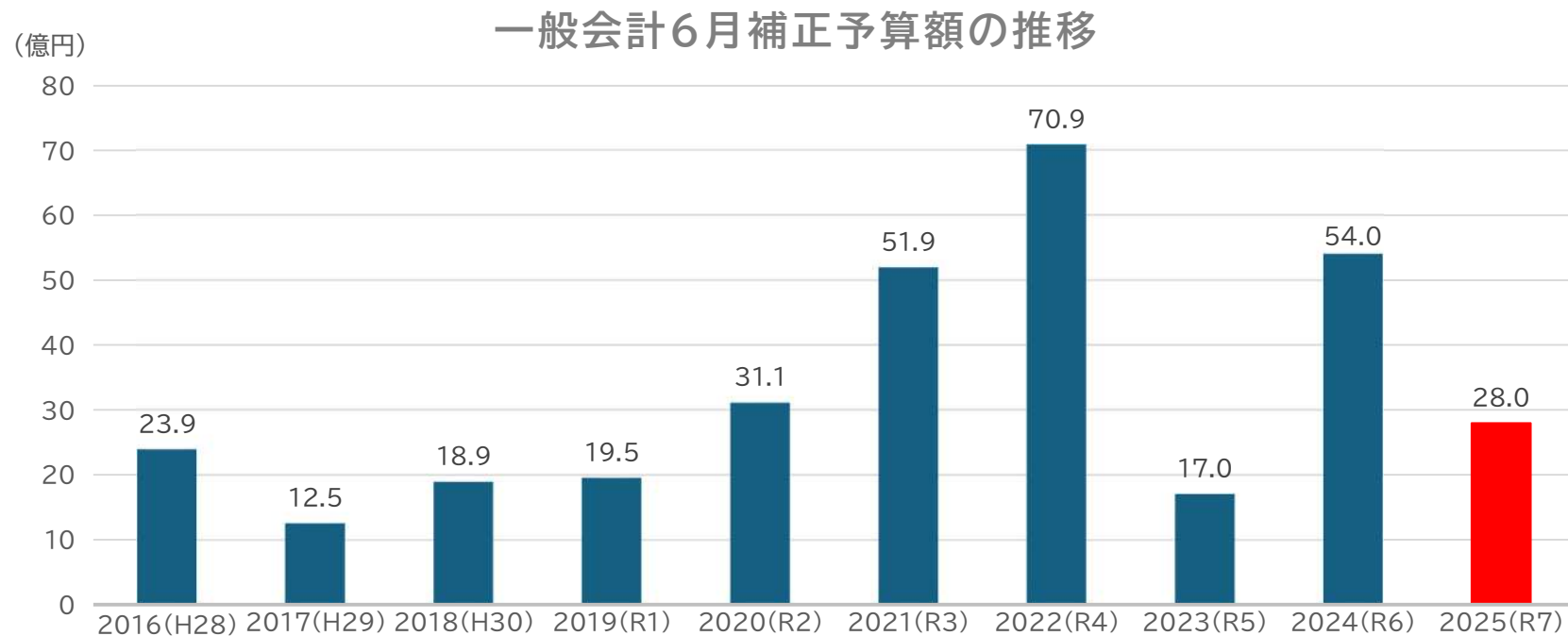
◎予算(案)の柱
(一般会計)

「地域経済の活性化」「文化・スポーツの推進」「教育環境の充実」
「安全・安心の確保」の4つを柱に予算を編成

➤ 地域経済の活性化	5億3,138万円
➤ 文化・スポーツの推進	1億7,954万円
➤ 教育環境の充実	9,900万円
➤ 安全・安心の確保	3億5,412万円
➤ その他	16億4,010万円

6月補正予算(案)の規模

区 分	2025年度 6月補正予算額	2024年度 6月補正予算額	増 減 額	増 減 率
一 般 会 計	28億 414万円	54億 228万円	△25億9,814億円	△48.1%
特 別 会 計	—	1,463万円	△1,463万円	皆減
企 業 会 計	—	2億2,631万円	△2億2,631万円	皆減
全 会 計	28億 414万円	56億4,322万円	△28億3,908万円	△50.3%



- **A 地域経済の活性化**
- B 文化・スポーツの推進
- C 教育環境の充実
- D 安全・安心の確保

1 旧足久保小学校活用事業①

補正額

事業費	国庫支出金(1/2)	市債	財産収入	一般財源
3億円	1億5,000万円	1億3,500万円	1,085.3万円	414.7万円

背景

- 2021年度末をもって美和中学校敷地内へ移転した足久保小学校の旧校舎は、現在、有効活用されていない。
- 市街地から約40分、近隣の新東名高速道路インターチェンジから約15分といった立地条件の良さなどから民間事業者などによる有効活用が期待できる。
- 施設規模が大きいことなどから、活用に向けた整備にかかる初期投資の負担が、活用のハードルとなっている。

目的

- 公募により決定した民間事業者による、旧足久保小学校活用のための改修整備等に対して助成することで、市有資産の有効活用を図り、地域経済の活性化につなげる。



1 旧足久保小学校活用事業②

実施内容

旧足久保小学校を活用する民間事業者を募集し、活用に必要な改修整備等に対して助成する。

- ・対象施設 旧足久保小学校(葵区足久保奥組) 地上4階建 延床面積約3,360㎡
- ・対象事業 民間事業者が実施する校舎等の改修整備等
※地域資源を活用し、地域の活性化を図る施設としての改修を実施
(旧清水西河内小学校の活用における事例:宿泊機能の整備など)
- ・補助率 10/10(上限3億円)
- ・スケジュール
(予定)

2025年 5月	事業者提案の募集
2025年 6月	事業者提案の審査、優先交渉権者の決定、事業実施に係る基本協定の締結
2025年 8月以降	賃貸借契約の締結、改修工事 着工
2027年 3月	改修工事 完了
2027年 4月	供用開始

※改修工事期間、供用開始時期は、事業者の提案内容による。

2 南アルプス地域活性化事業

補正額

事業費	国県支出金	市債	寄附金	一般財源
1,500万円			1,500万円	

背景

- 南アルプスの自然環境と井川地域の歴史・文化を発信・継承する拠点施設「南アルプスユネスコエコパークミュージアム」が2025年7月12日に開館する。
- 同ミュージアムの開館による南アルプス及び井川地域への誘客効果等を更に高めるためには、魅力ある体験型メニューを充実させることが重要である。

目的

- 南アルプスユネスコエコパークの魅力を体験するメニューを活用することで、南アルプス及び井川地域への更なる誘客・周遊の促進を図る。

実施内容

静岡市、地域住民、ミュージアム運営事業者が連携し、南アルプスや井川地域の自然環境や地域資源を体感・周遊する体験型メニューを造成する。

・実施内容

- (1)井川地域の在来作物を活用した地域の食文化体験メニューの造成
- (2)南アルプスや井川地域の自然や文化を体感するE-bikeを活用した周遊体験メニューの造成
- (3)南アルプスの自然の雄大さを体感するトレッキングツアーの造成

・スケジュール

- 2025年 7月～ 専門家の意見を踏まえた体験型メニューの造成
 9月～ モニター調査の実施
 11月～ 広告動画等の制作
 2026年 4月～ 造成した体験型メニューの活用

3 オクシズ材活用促進事業①

補正額

事業費	国県支出金	市債	基金繰入金	一般財源※
5,100万円			1,100万円	4,000万円

背景

※特別交付税措置の対象

- 木材生産を主体とした森林資源の循環利用を行う「循環林」の適正管理を進めるためには、木材利用を促進し、主伐期を迎えた木々を滞りなく伐採する好循環を創出する必要がある。
- オクシズ材(静岡市内で伐採された木材)の利活用促進のため、2024年度まで、建築主に柱等の木材を提供する事業を行ってきたが、よりオクシズ材の活用の増加に効果的な方法に見直すための検討をしてきた。

目的

- オクシズ材の利用拡大及び流通促進を図ることで、木材生産を主体とした森林資源の循環利用を促進し、持続可能な森づくりを実現する。

実施内容

オクシズ材を使用して新築・増改築、リフォームを行う建築主に対し、施工費の一部を助成する。

- ・対象者 オクシズ材を使用して、住宅・非住宅の新築・増改築、リフォームを行う建築主
- ・交付の要件
 - ①施工場所は日本国内であること
 - ②静岡市内の事業者が製材したオクシズ材を使用すること
 - ③住宅の場合は、静岡市内の事業者が建築施工すること ほか
- ・補助単価
 - (1)新築・増改築 オクシズ材(構造材及び仕上げ材)の使用量1㎡あたり2万5千円
 - (2)リフォーム オクシズ材(仕上げ材)の使用量1㎡あたり3千円
 - ※森林認証材の場合は、新築・増改築は1㎡あたり3万円、リフォームは1㎡あたり4千円
- ・補助上限額

(1)新築・増改築	①住宅	50万円	※森林認証材の場合は、60万円	
	②非住宅	250万円	※森林認証材の場合は、300万円	
	(2)リフォーム	①住宅	12万円	※森林認証材の場合は、16万円
		②非住宅	85万5千円	※森林認証材の場合は、114万円

3 オクシズ材活用促進事業②

○補助金の活用イメージ（オクシズ材を使用して住宅の新築・増改築を行う場合）

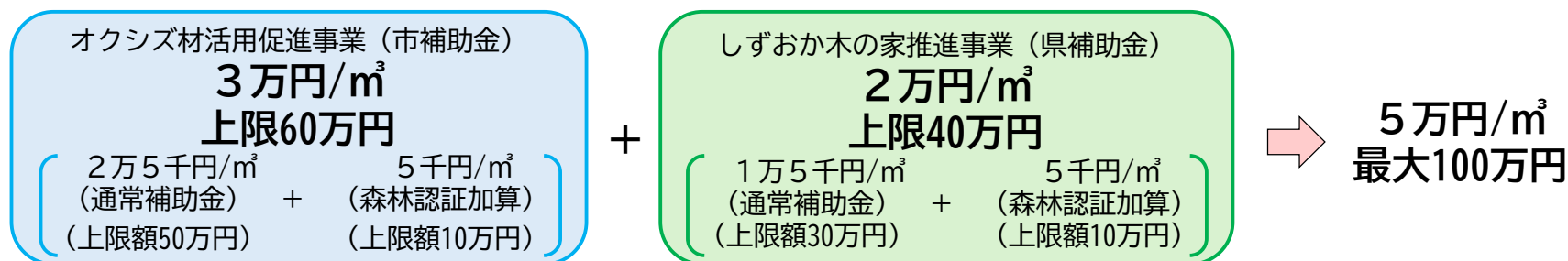
木材種別 助成制度	しずおか優良木材等 かつ 森林認証材 の場合 ※1 ※2	しずおか優良木材等 の場合	森林認証材 の場合	その他
オクシズ材活用促進事業 (市補助金)	○	○	○	○
しずおか木の家推進事業 (県補助金)	○	○	×	×

※1 しずおか優良木材等：①しずおか優良木材認証審査会（静岡県森林組合連合会）が認定した工場で生産された製材品・製品で、静岡県が定める品質規格等の検査に合格した認証製品

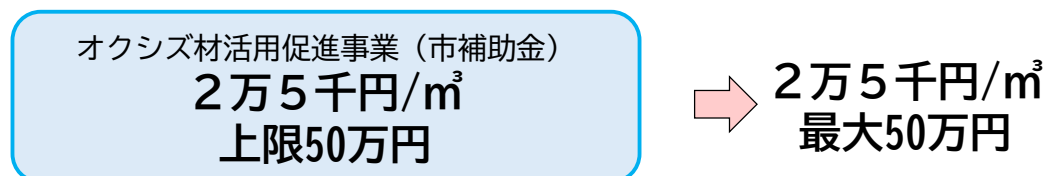
②静岡県産材証明制度によって産地及び合法性が証明された木材を使用したJAS・JIS製品

※2 森林認証材：供給者・消費者のどちらでもない第三者機関が「環境保全への配慮」や「森林経営の持続性」などの基準に沿って認定した森林から生産された木材やその関連商品

（例1）『しずおか優良木材』かつ『森林認証材』のオクシズ材を使用して住宅の新築・増改築を行う場合



（例2）その他のオクシズ材を使用して住宅の新築・増改築を行う場合



4 工芸品価値創造事業

補正額

事業費	国庫支出金(1/2)	市債	その他	一般財源
2,000万円	1,000万円			1,000万円

背景

- 静岡市には、駿河竹千筋細工などの工芸品産業が根付いているが、その製造品出荷額は過去20年で半減するとともに、担い手も減少している。(工芸品の製造品出荷額 2004年:5.2億円 → 2023年:2.6億円)
- 市内工芸品産業における後継者の確保・育成や、技術の継承を実現するためには、工芸品の収益性向上に向けた商品開発や販売促進への支援が重要である。
- このため、世界市場に通用する商品開発および海外販路の獲得に向けた支援を検討してきた。

目的

- 市内工芸品に付加価値を創造し、国内外における販売額を拡大することで、持続可能なビジネスモデルを構築し、工芸品産業の後継者の確保・育成や技術の継承を実現する。

実施内容

多様な主体が参画するプラットフォームを構築し、工芸品の販売額の拡大に向けた総合的な支援を実施する。

- ・事業推進体制 静岡市工芸品価値創造事業実行委員会(2025年9月立ち上げ予定)
 - ・企画管理・商品開発部門 駿府匠宿、文化クリエイティブ産業振興センター
 - ・販路開拓部門 駿府楽市など
- ・実施内容
 - 2025年度 市場調査、支援対象品目・生産者の選定、販売戦略の立案、試作品の製作
 - 2026年度 展示会出展などを通じたテストマーケティング
 - 2027年度 企業の仕入れ担当者への売込みなどによる販路開拓

5 静岡おみやげ創出事業

補正額

事業費	国県支出金	市債	その他	一般財源
200万円				200万円

背景

- 訪日外国人旅行者の増加などを背景に観光需要が急激に高まる中、静岡市内での「観光消費単価」が低いことが課題となっている。(宿泊客の消費単価:静岡市 2,815円(※1)、全国平均 7,915円(※2))
 ※1:するが企画観光局「来訪者調査」(5市2町在住者除く)
 ※2:観光庁「旅行観光消費動向調査(2024年度)」
- このため、静岡市ならではの魅力ある商品などを充実させることで、来訪者満足度を高めるとともに、「観光消費単価」を高める必要がある。

目的

- 全国から商品アイデアを募り、市内の食品製造業とのマッチングによる商品開発につなげることで、静岡市の定番となるブランド力の高いお土産商品を創出する。

実施内容

静岡市の定番となる新たなお土産商品を創出するためのアイデアコンテストを開催する。

- ・募集内容 ①インバウンド向けおみやげ部門
②国内観光客向けおみやげ部門
- ・選定数 最優秀賞 各部門1人 賞金10万円/人
優秀賞 各部門2人 賞金 5万円/人
- ・選考方法 書類選考後、プレゼン審査により決定する。
- ・募集時期 2025年7～9月(予定)

6 奨学金返還支援事業費補助金

補 正 額

事業費	国県支出金	市 債	そ の 他	一般財源
1,000万円				1,000万円

背 景

- 若い求職者が、福利厚生や待遇面の安定した県外企業を選択する傾向にある。
- 静岡市と企業が協働し、静岡で働きたい若い求職者を支援することで、若者の市外流出、市内企業の人材不足の解消が見込まれる。
- 一部の企業では採用力向上のため、従業員に対する奨学金返還支援制度を導入しているが、市内での導入事例は少ない。

目 的

- 奨学金返還支援に取り組む企業を増やし、市内企業の採用力を向上させることで、企業の人手不足解消を支援するとともに、人材獲得における首都圏や周辺市町等との競争力を高める。

実 施 内 容

従業員の奨学金返還を支援する企業に対して、その費用の一部を助成する。

- 対象企業 市内に 本社 または 独自の採用権限のある事業所 を置く企業
- 対象経費 奨学金返還支援の目的で、企業が従業員(正社員に限る)に対して支出した給与・手当など
※企業が日本学生支援機構の代理返還制度を活用した場合を含む
- 補助率 ①中小企業 2/3 ②大企業 1/2
- 上限額 ①中小企業 従業員1人あたり12万円／年度（6年間で最大72万円）
②大企業 従業員1人あたり 9万円／年度（6年間で最大54万円）
- 補助期間 最大6年間

- A 地域経済の活性化
- **B 文化・スポーツの推進**
- C 教育環境の充実
- D 安全・安心の確保

1 清水日本平運動公園球技場観客席更新

補正額

事業費	国県支出金	基金繰入金	寄附金	一般財源
1億8,300万円		1億3,390万円	4,910万円	

背景

- 企業版ふるさと納税を活用し、静岡市をホームタウンとするプロスポーツチーム等と連携したスポーツの普及や競技環境の整備などの地方創生に資する事業を行う「プロスポーツチーム等連携プロジェクト」を行っている。
- IAIスタジアム日本平(清水日本平運動公園球技場)は、1991年の開場から築34年が経過しており、これまでもトイレなどの設備を更新しているが、老朽化が進んでいる。

目的

- IAIスタジアム日本平の設備を更新することで、観客の快適性を確保する。また、背もたれ付き座席を増加させることで、国際大会などの大規模な大会の開催が可能となる。

実施内容

企業版ふるさと納税を活用し、IAIスタジアム日本平の観客席を更新する。

・更新設備 メインスタンド側観客席 4,722席(うち、SS席・S席の2,962席は背もたれ付き座席に変更)

・スケジュール 2025年12月～ 改修工事
2026年 1月 改修完了

《座席内訳》

区分	改修前	改修後
① 背もたれ付き座席	2,038	5,000
② 背無し座席	17,995	15,033
全体(①+②)	20,033	20,033

2 ユニバーサルスポーツ聖地化推進事業

補正額

事業費	国庫支出金(1/2)	市債	その他	一般財源
5,940万円	2,970万円	2,670万円		300万円

背景

- 清水区庵原地区には、トップアスリートがトレーニングする「清水ナショナルトレーニングセンター」や、パラスポーツ優先の民間施設「IAIパラスポーツパーク」がある。
- 同地区には、高速道路ICがあり、国内各地域からのアクセス環境が整っているため、車で移動する際の利便性が高いエリアである。

目的

- 庵原地区を健常者スポーツとパラスポーツの垣根を越えた多様な人がスポーツに取り組む「ユニバーサルスポーツの聖地」に進化させることで、首都圏・関西圏等からの利用拡大を図る。

実施内容

ちゅ～るスタジアム清水(清水庵原球場)敷地内にパラスポーツで優先的に利用可能な屋内運動場等を整備する。

- ・整備場所 ちゅ～るスタジアム清水第1駐車場(清水区庵原町)
- ・整備内容 屋内運動場整備
- ・整備面積 約2,000㎡(50m×40m)
- ・使用競技(想定) サッカー、野球、ソフトボール など
- ・スケジュール

2025年度	設計
2026年度	整備工事
2027年4月	供用開始

※屋内運動場の整備とともに、バリアフリートイレ増設なども実施



- A 地域経済の活性化
- B 文化・スポーツの推進
- **C 教育環境の充実**
- D 安全・安心の確保

1 学びの多様化学校整備事業①

補正額

事業費	国庫支出金 (1/2、1/3)	市債	その他	一般財源
8,900万円	2,878.3万円	4,150万円		1,871.7万円

背景

- 静岡市の不登校児童生徒数は、5年間で約1.7倍に増加。(2019年:1,177人 → 2023年:1,948人)
- 不登校児童生徒が学びたいときに学べる環境づくりのため、校内サポートルーム及び教育支援センターでの支援や、フリースクール等民間施設との連携を進めている。
- しかし、不登校の児童生徒のなかに、在籍校のサポートルームへの通学が困難である児童生徒がいることや、教育支援センター及び民間施設等では学ぶべき内容を示す教育課程が定められていないことから、学びの質の確保が難しいといった課題がある。

目的

- 「学びの多様化学校」を設置し、学びたいときに学べる環境づくりを推進することで、不登校児童生徒に対する多様で適切な教育の機会を確保する。
- ・「学びの多様化学校とは…」
教育課程の基準によらずに、不登校児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程(※)を編成して教育活動を実施することができる文部科学省指定の学校。
(※) 授業時間を減らすことができる(学習指導要領1015時間→850～900時間)
朝のスタート時間を遅くして余裕のある時間割が編成できる(8時15分→9時30分始業など) など

1 学びの多様化学校整備事業②

実施内容

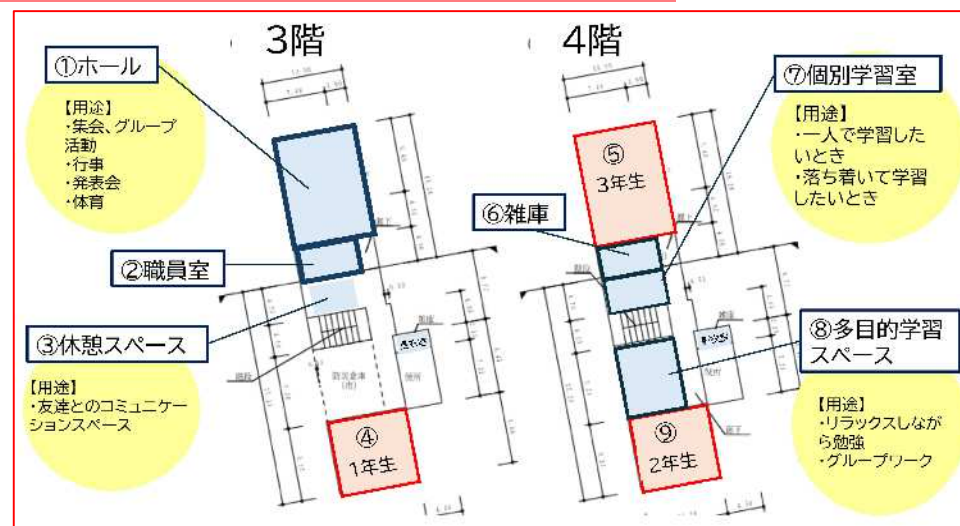
不登校児童生徒が、学びたいときに学べる環境を整えるため、「学びの多様化学校」を整備する。

- ・開校日 2026年4月(予定)
- ・設置場所 新通小学校 校舎内(東校舎3, 4階)
- ・設置形態 末広中学校分教室
- ・対象 市内全域の中学生
- ・定員 中学生3学年×各1クラス(1クラス16人程度)
- ・整備内容 教室の設備修繕(空調設備、消防設備等)
教室のリノベーション(既存床タイルの撤去、研磨等)
ICT環境の整備(校務システム・一人一台端末環境の整備)
備品等整備(机、椅子、パーテーション等)
駐車場整備 など

新通小学校と末広中学校の位置関係



新通小学校 東校舎3階、4階平面図



2 市立小中学校施設整備事業(寄附を活用した学校施設整備)

補正額

事業費	国県支出金	市債	寄附金	一般財源
1,000万円			1,000万円	

背景

- 2025年4月に服織小学校及び服織中学校の施設整備に対し、寄附の申し出があった。

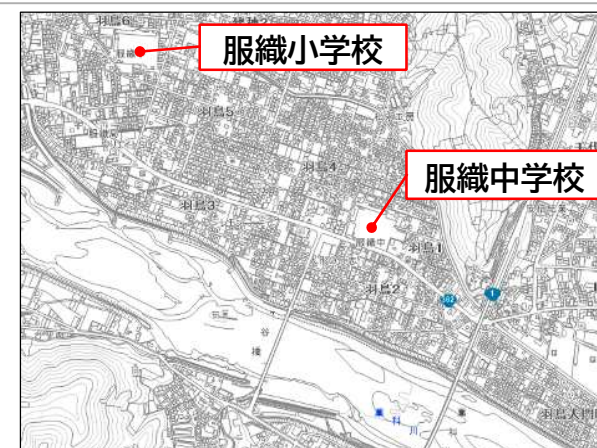
目的

- 寄附金を活用し、老朽化した門扉の更新やテントの購入など、服織小学校と服織中学校の施設整備等を行うことで、学習環境の改善を図る。

実施内容

服織小学校及び服織中学校の施設整備等を実施

- 服織小学校(葵区羽鳥六丁目9番1号)
 - ・寄附額 500万円
 - ・整備内容 門扉(正門)の更新、メッシュフェンス設置
- 服織中学校(葵区羽鳥一丁目8番1号)
 - ・寄附額 500万円
 - ・整備内容 テント(17張)の購入、テント保管用倉庫設置



- A 地域経済の活性化
- B 文化・スポーツの推進
- C 教育環境の充実
- **D 安全・安心の確保**

1 日勤救急隊整備事業

補正額

事業費	国県支出金	市債	その他	一般財源
6,200万円		5,850万円		350万円

背景

- 救急出動件数は近年増加傾向にあり、今後、救急需要への早期対応が困難となることが懸念される。
- 次期10年間(2026年～2035年)の広域消防体制に関して、3市2町(静岡市、島田市、牧之原市、吉田町及び川根本町)で協議を行い、ひっ迫する救急需要への対応や消防体制の強化を目的に、現在の消防・救急配備体制を見直すこととした。(2025年1月の静岡地域消防運営協議会にて決定)

目的

- 特に救急需要の多い平日日中の出動に対応するための「日勤救急隊」を増隊することで、通報から救急隊現場到着までの所要時間の短縮を図る。

実施内容

1隊あたりの救急隊出動件数が最も多い葵消防署管内に、「日勤救急隊」を増隊(+1隊)する。

・整備内容 高規格救急自動車の配備(1台)

・スケジュール 2026年4月
「日勤救急隊」運用開始
(葵消防署管内)

●救急隊出動状況(2024年実績)

	消防署	救急隊数(隊)	出動件数(件)	1隊1日当り件数
1	葵	専任2 +日勤1(2026.4～)	6,733	9.2件 (増隊後:6.1件)
2	駿河	専任5	13,379	7.3件
3	千代田	専任4	8,005	5.5件
4	清水	専任2・日勤1	6,496	5.9件
5	港北	専任2・兼務1	3,890	3.6件
6	日本平	専任1	2,658	7.3件
7	島田	専任2・兼務4	5,075	2.3件
8	吉田	専任1・兼務1	1,972	2.7件
9	牧之原	専任1・兼務1	954	1.3件
計		28隊+1隊	49,162件	5.0件

2 災害時市民等安否確認システム構築①

補正額

事業費	国県支出金	市債	その他	一般財源
1,000万円				1,000万円

背景

- 災害発生時に迅速な救難救助や、的確な被災者支援を実施するには、市民等の安否情報や避難先などを迅速かつ正確に把握することが重要である。
- 静岡市では、災害時の市民等の安否情報を収集する手段が、避難所や自治会などから電話やFAXといった人手に頼ったやり方となっており、迅速性・効率性に欠けるため、大災害になると対応が出来ない。

目的

- デジタル技術を活用した安否確認システムを構築し、災害時に市民等の安否情報を迅速に収集し、安否不明者名簿の作成を効率的に行うことで、発災後の迅速かつ円滑な救助活動につなげる。

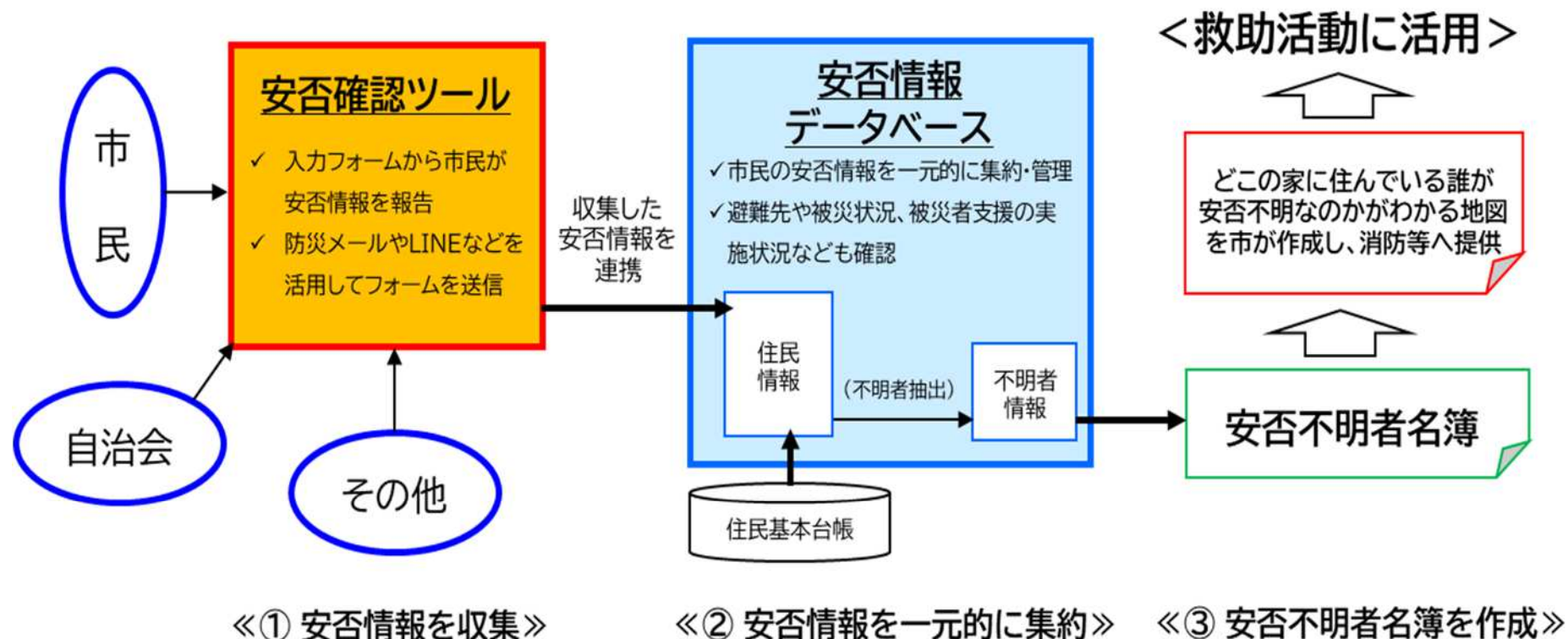
実施内容

デジタル技術を活用した安否確認システムの構築に向けて、設計を行う。

※大規模災害を前提とした取組は政令市初となり、実用化に向けて相当の試行錯誤、改良等が必要となる見込み

・スケジュール	2025年度	システム設計
	2026年度	システム開発
	2027年4月	システム運用開始

2 災害時市民等安否確認システム構築②



安否確認システムの活用イメージ図

3 動物愛護センター再整備事業①

補正額

事業費	国庫支出金(1/2)	市債	その他	一般財源
1億 440万円	1,250万円	7,780万円		1,410万円
(継続費 8億1,200万円)	(1億2,450万円)	(5億9,880万円)		(8,870万円)

背景

- 近年、動物愛護精神の啓発などが重要視されている中、現在の動物愛護センターは、老朽化が進み、動物の愛護及び管理を推進していくための環境改善が課題となっている。

目的

- 市民が訪れやすい施設を整備し、動物愛護精神の普及及び動物に関する理解を深めることで、市民と動物が穏やかに共生できるまちづくりを実現する。

実施内容

動物愛護センターを、2025年11月末で廃止する林業センター跡地に移転、再整備する。

・整備概要 現：動物愛護センター(葵区産女)

項目	施設名	管理棟・抑留棟	動物愛護館
土地面積		1,661m ²	1,566m ²
延床面積		624m ²	513m ²
構造		RC造	RC造
建築年		1979年	1988年



新：動物愛護センター(葵区千代)

項目	施設名	新・動物愛護センター
土地面積		2,210m ²
延床面積		約800m ²
構造		S造
供用開始		2027年12月(予定)

※火葬炉は現位置(葵区産女)に残す

- ・スケジュール

2026年 3月～11月	林業センター解体(1億440万円)
2026年 3月～2027年11月	再整備の設計・工事(8億1,200万円)
2027年12月	供用開始(予定)

3 動物愛護センター再整備事業②

現施設と移転先の位置関係

【 現在の動物愛護センター(管理棟) 】



新・動物愛護センター(葵区千代)
※旧林業センター(2025年11月末で廃止予定)

移転先

現・動物愛護センター(葵区産女)

静清BP 千代IC

静清BP 羽鳥IC

出典:地理院地図



【 現在の動物愛護センター(愛護館) 】

4 (仮称)三保グラウンドゴルフ場整備事業

補正額

事業費	国県支出金	市債	その他	一般財源
4,800万円		3,730万円		1,070万円

背景

- 三保真崎グラウンドゴルフ場の土壌は排水性が悪く、大潮や雨の影響により、年間100日程度は施設の一部が利用できない日があるため、これまで移転や改修等について検討してきた。
- また、津波浸水想定区域に位置していることから、現在地で改修するためには対策が必要となる。

目的

- グラウンドゴルフ場を移転整備することで、いつでも利用しやすい環境を早期に整える。

実施内容

グラウンドゴルフ場の移転整備に向けて、設計などを行う。

- ・実施内容 測量・境界確定、地質調査、実施設計
- ・移転先 清水区三保(旧清水三保市営住宅用地)
総面積 約13,000㎡
コース面積 約 6,500㎡(想定)
- ・スケジュール 2025年度 測量・境界確定、地質調査、実施設計
2026年度 整備工事
2027年4月 供用開始

